

農産 F A X 情報 第 1 号

令和 4 年 5 月 1 5 日

ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

○止葉期の追肥

- ・ 平年の止葉期は 5 月 2 8 ～ 3 0 日ですが、本年は幼穂形成期が平年よりやや早いため、止葉期が早まることが予想されます。
- ・ 生育状況・気象予報を確認し、止葉期の計画的な追肥を行きましょう。

表 1 止葉期の追肥例

窒素成分の施肥量	施肥時期	単肥の施肥量
4 kg / 1 0 a	5 月下旬 ～ 6 月上旬	硫安(窒素 21%) 1 9 kg / 1 0 a
		尿素(窒素 46%) 8 . 7 kg / 1 0 a

○赤さび病の防除

- ・ 本病は 5 ～ 6 月の高温多照により多発しやすいです。気象経過に注意し、必要に応じて防除を行きましょう。
- ・ 止葉抽出から穂ばらみ期に 1 回、開花期に 1 回（赤かび病との同時防除が可能）の薬剤散布により発生が抑えられます。

表 2 赤さび病の防除例

対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用回数
赤さび病 赤かび病 うどんこ病	チルト乳剤 25	1,000 ～ 2,000 倍	3 回以内
赤さび病 赤かび病	ミラビスフロアブル	1,500 倍	2 回以内

2 てんさい

○雑草防除

- ・除草剤を使用する際は使用時期に注意しましょう。特に直播てんさいでは葉齢が進んでいない固体に散布することで生育が抑制されることがあります。

○テンサイトビハムシの防除

- ・移植後の高温多照が続くことで、テンサイトビハムシの発生が懸念されます。ほ場観察により早期発見・防除に努めましょう。

3 豆類

○雑草防除

- ・豆類の除草剤は使用時期が短い剤があるため、出芽や葉数を確認し、適切な防除を励行しましょう。
- ・土壌処理は土壌が乾燥している場合は効果が劣るため、散布水量を増すか、土壌水分が適度にある時に散布しましょう。

◎作物の生育状況に合わせた適期防除を実施しましょう！

◎農薬使用後は生産履歴を忘れず記録しましょう！

◎風によるドリフトに注意しましょう！